



説明不足を補います ④

9月30日の第23号で紹介したスライドです。

西南部中学校研究主任の奥野先生が研修会のために作ってくれたものです。今は名誉顧問をされている鈴木敏文さんは、大実業家であるだけでなく、たくさんの著作を發表されています。私は、鈴木氏が中央大学理事長をされていた頃に出された文で、**今の日本のどこが多様化なのでしょう。私が商売を通じて見る日本人の姿は、明らかに『画一化の時代』です。**を読んだときに驚きを覚えました。確かに、間違いなく、多様化しなければならないとみんなが思っているのに、多様化ではなく多層化しているだけの学校教育をどうしたらいいのかを考えるきっかけになりました。

本質は何かを考え抜くことから、目的を明確にする。

そこから手段が見えてくるはずなのに、「何のために」を深く考えないで、真剣に取り組んでしまうことが学校にはたくさんあります。

それはなぜか。すべて、正しくて、良いことだからなんです。正しくないことをやることはありませんが、やらなくてもいいことでも、今までやってきたことを止めたらいけないのではというバイアスもかかります。

さて、学校が変わらない側面その2は、教育委員会制度の限界です。

私は石川県教育委員会金沢教育事務所で、5年間、生徒指導担当の指導主事として勤務しました。ごくごく稀に自分のために仕事をしている人もいましたが、みんな生徒のことが好きでたまらない人たちばかりでした。教育委員会では教育長を頂点にして、有能な人たちが日夜がんばっておられます。私の後輩で、素晴らしい教育実践をしていた先生たちが、生徒の前ではなく、先生たちのために精一杯がんばっています。

公立小中学校の設置者は地方公共団体で、管理運営は教育委員会なので、学校の設置者としての判断は教育委員会が行うとなっています。市民から選ばれた市長が、教育長を指名し、その教育長の方針でその教育委員会が動きます。

ちょっとした例でお話します。

痛ましい事故が発生し、市教育委員会は緊急の「自転車安全教室」の開催を全小学校に命じました。

正しいことです。多くの市民は納得されると思います。

いいえ、間違いなんです。

市教育委員会は、適切な時期に「自転車安全教室」の開催を全小学校に命じました。 なら◎です。

タイムリーでなければならなのですが、**一斉に、一律に、**には問題があります。それぞれの学校にとってのタイムリーではありません。**市教育委員会**にとってはタイムリーなんです。

一斉に、一律に、が大切なことは多いです。しかし、全てそれではいろいろな無理が起こります。でも、市長や議会を無視して、教育委員会は独自行動することはできないので、**一斉に、一律に、**にならざるをえないのでしょう。

「学校の特色を」と、どれだけ言われても空しいだけです。

残念ながら、先生たちは**「思考停止」**します。

本質は何かを考え抜くことから、目的を明確にする。

という鈴木氏の言葉のように学校が動いていれば、ここまで学校は変化の乏しい存在にはならなかったと思うのですが、今の教育委員会制度がこのままある限りは、改善を期待することのほうが間違いです。

そして、先生たちのすべきことは、減ることはまれで、増加することがほとんどなんです。

自分の仕事の**本質**は何か、
「**未来を起点にした発想**」を持ち、
「**お客様の立場で**」考え抜く。
目的が明確になれば、それを達成する手段として、いろいろな知恵や
新しいアイデアも浮かぶはずですよ。
それが、**本当の意味で仕事をする**ということです。



セブン&アイ 元会長 鈴木敏文

